

令和6年度香川県立文書館運営協議会 議事概要

- 日時：令和6年6月5日（水） 10：00～11：25
- 場所：香川県立文書館 2階 視聴覚ホール
- 出席委員：菅委員、高塚委員、田中委員、西川委員、花田委員、山下委員、吉田委員、
井下委員
- 欠席委員：和田委員
- 傍聴者：なし

- 1 開会
- 2 館長挨拶
- 3 新委員紹介
- 4 議事

- 議題1 令和5年度文書館事業報告について
- 議題2 令和6年度文書館事業計画について
 - ・資料に基づき事務局から説明した。

<質疑応答等>

【委員】 15ページのレファレンス、相談件数について、電話、メール、カウンターでの対応等様々な方法があると思うが、レファレンスの基準はどうなっているのか。

また、SNSへの取組みも考えたらよいのではないか。インスタやXなど、短文で職員の方の負担にならないように、例えば、今日こういうふうに協議会を開催したと写真を流すとか、展示を行ったときにその写真とキャプションをインスタなどで流すなどして、その際にはハッシュタグで香川県立文書館というのを必ずつけるようにするといいたいと思うので、検討してほしい。

【事務局】 皆さんの興味、関心を引くようなものを発信したりできるインスタやXなどは非常に有益と思う。ただ、今年度、職員が1名減っており、その業務を誰にお願いするかという頭が痛い部分もある。発信手段について、どのような更新頻度で、こういったものを発信するのか、それを発信できる職員をどう確保するのかなども含め、検討したい。

【委員】 職員の負担にならないような展示のキャプションとか、古文書の「初歩の初歩」(講座)でその報告を出すだけでも結構かと思う。そういうところから始めるといいのではないか。

【事務局】 企画展示の発信なども含め、どのような手段、内容とするのかなど、今後検討したい。

【事務局】 レファレンスの範囲については、基本的にはカウンターで直ちに対応ができずに、

専門職員等に話が来たというものが基準となる。こういうものがないかと言われたとき、それはあそこの本棚にあると、この手の本はどの棚にあるか、それはそこにあると、こういった単なる案内のようなものはレファレンスの範囲から外している。逆に、特別利用とか、館蔵品を本に載せたいとか、そういうものはレファレンスの中に入れていく。カウントをしている私の方にその情報が来なかった場合は、漏れているものがあるかもしれないが、それ以外は拾い上げて、今年に関しては91（件）として出している。

【事務局】 公文書の方は、職員が対応したら、必ずそれを記録として残すようにしており、どんな小さいことでもメモに書いて共有している。

【委員】 SNSの件だが、高松市の生涯学習課（まなびCAN）がいろんな新しい取り組みをしている。一度、どういうイメージなのか、ご覧になったらどうか。

【事務局】 一度、見てみる。

【委員】 3ページの予算の推移で文書館運営に関する経費は、今年度4,920万1千円で、令和5年度に比べて200万近く増加しているが、その理由等を教えてほしい。

また、11ページで、令和5年度に収集等を行った文書ということで、こちらの方が寄贈になっているが、寄託という意味を教えてください。こちら（寄託）が解除になって点数減となっているが、どういうものが解除になったのか教えてください。

【事務局】 （予算の推移について）人件費の増額が一番大きな要因である。

【事務局】 寄贈と寄託について、寄贈はお持ちになっている方が香川県に所有権も含めてくださるということで、寄託は当館と契約を結んでお預かりするという形になる。

文献をお持ちの方が高齢になり、相続人へお話を通していただけていないときに、中ぶらりんになってしまうこともあるので、個人の方からの寄託はよくご検討いただきたいということを十分にご説明している。

矢野家文書については、含まれているものに江戸時代の医学書が豊富にあり、持ち主の方から医学書について寄託していただいたが、手元でもう1回見直したいと、寄託を解除して返してもらえないかという申し出があり、持ち主へお返ししたのが351件ということで減になっている。

【委員】 文書館に3名の認証アーキビストがいる。ただ、一般的にあまり知られていないかもしれないので、この認証アーキビストをもっと一般の方などにPRしていくというようなことは、何か考えがあるか。

【事務局】 今後、様々な研修会や自主企画などの企画展のときに、当館の認証アーキビストが

講師をする場合に、講師の名前と併記して認証アーキビストであることを示すなど、その専門性の高さと認証アーキビストの制度について広く知っていただくことなどにより、周知を図ってまいりたい。

【委員】 認証アーキビストについて、少し補足させていただく。国立公文書館は独立行政法人で、その所管は内閣府である。主務大臣は内閣総理大臣ということで、国立公文書館長が認証しているということは、内閣総理大臣のお墨付きの事業である。沖縄県などは、認証アーキビストが知事を表敬したりということもしており、福井県などは、地元紙で取り上げられているということもあるので、四国新聞に売り込むとか、地元の放送局のローカルニュース枠で取り上げていただくというような手もあろうかと思う。

認証アーキビストは、香川県の総務課の職員でもなれる。文書管理、情報公開、個人情報保護を担当しているものは、実務経験としてカウントされる。今のところ、現役の文書管理をしている職員で認証アーキビストになっている人はいないが、香川県が先陣を切っていただければありがたい。

【委員】 大阪大学の場合、科目履修という制度を利用して資格を取っている方がいる。

【委員】 大阪大学の科目等履修生は過去2人で、1人は現役アーキビストだったが、科目等履修生として来られた。もう1人は、他大学の大学院の学生だったが、1年間休学して学んで、この6月1日付で準認証アーキビストとして公示された人である。

【委員】 14、15ページの利用事業、利用状況で、昨年度3万7千人以上の方が利用されたということだが、広く一般的な方が使われているのか、それとも非常にアカデミック、学問的な資料収集などで使われているのか、ざっくりした雰囲気でもいいので、教えていただきたい。

もう1点は、県立図書館と文書館は隣にあり、セットでも行き来するようなイメージだが、ホームページ上で、文書館から県立図書館はリンクですぐに飛べるが、図書館から文書館には飛べない。何か県のホームページと図書館のホームページで作りが違って、そういう仕様なのか。できれば、図書館のホームページを見た人が文書館に飛べたらいいと思う。

【事務局】 (利用状況について) 公文書の目録をインターネットで公開しているというのは、非常に数を増やす原因になる。最近の傾向としては、大学生、大学院生が、博士論文を書くといった利用の仕方や、大学の先生が県外からお越しいただいて利用するなど、学術的な利用が増えている傾向にある。

【事務局】 古文書については、ずっと研究が続けられているという方が多く、初めて来られた方は、公文書同様に、学生、大学の研究者といった方が多い。その他に、興味があるということで、先ほどのレファレンスの流れのような形で来られた方が最終的に古文書に繋がるということがいくらかある。行政資料については、図書館同様の本の置き方をしているのでふらっと

来て見ていくという方と、詳しく見たいという方とで、これがどの程度か難しいところだが、並立しているというような形である。

【事務局】 ホームページで図書館から文書館はリンクしていないということだが、技術的な問題でリンクできないのか、その他の原因があるのか、直ちには分からない。委員ご指摘のとおり、できれば便利であるので、多額の費用をかけずにできるのであれば、図書館と今後相談したい。

【委員】 16 ページで普及啓発事業をされているが、この場所は立地の問題がある。だから、インターネットの利用、ホームページの案内というのものもあるが、メディアへの行動が一番大事だと思う。その点、どのような取組みをしているのか。

【事務局】 企画展示や県の事業に関する展示を1階展示室で行う際には、文書館のホームページに掲載するほか、県政記者室が県庁にあり、そこにテレビ、新聞、ラジオなどの各社が入っている所以、そちらに何日か前に資料をお持ちし、提供している。その結果、今年も、古文書の講座について開催するというものが新聞に掲載された事例がある。

【委員】 展示のやり方として、私のところでは資料現物は出せないけれども、パネル展示を年に1回、阪急梅田駅に無料で借りられるスペースがあるので、そこでパネル展示を行っている。職員も減っている中で新しいのは負担になるだろうが、パネルは展示に際して何枚か作るだろうから、それを県庁のロビーに持っていくなどであれば、割と労力をかけずに、お金もかけずにできるのではないかと思う。

普及活動で、他府県では行われていて、ここには載っていないのが、学校連携の話だと思う。学習指導要領によっても公文書館について高等学校では教えるとなっているので、そこら辺はどうお考えなのか。

また、委員への要望で、私のところでも、アーカイブズとは関係ないという学生たちを連れてアーカイブズの見学に来る先生もいるので、せっかく委員をされているので、ゼミ生を連れてこちらに来られるとよろしいかと思う。

【事務局】 ここ数年の当館の取組みの中で学校と連携したものは、表立った事業としてはなかったと思う。

【事務局】 学校の話になると、以前にも会長から、特に小学生を相手にするのは、古文書が多いので難しいだろうということをお願いしていたかと思う。ただ、小学生向けの副読本を作っている業者が、当館の公文書を写真で掲載してくれたりして、活用がされている。学校ともすぐに連携というのはなかなか難しいところがあるが、そういった形で学校の教育を支えていくことが、館としてできればと思っている。

もう1件は、近所の林小学校と連携して、ここがかつて空港、飛行場だったという地域の歴

史を伝えるような授業を協力して行った実績が過去にある。その後、それをもとにした授業をずっとしていただいているということで、最初支えたという意味では、十分に役割を果たしているのではないかと考えている。

【委員】 普及啓発事業のことで、今年度、「掘り出しモノ」（企画展示）をされるといういのだが、香川の偉人で中野武営という方がいて、うわさでは、どうも今年度、銅像が立つということで、いろんなところで講演会がされたり、本学でも、今月中旬に、県立ミュージアムでいらした西岡先生が、武営さんのことについてお話をされるが、今回のこの「掘り出しモノ」の中に、香川経済の父とも言われる中野武営が出てくるのかどうなのか。今ちょうどトピックで、来月には、中野武営と同時期に活躍した渋沢栄一の新紙幣ができる。そういう時流に乗ったようなものも大事かなと考えているので、できればそういうものがあればいいと考えている。

【事務局】 中野武営に関しては、数年前に研究者の方に、当館にも資料がないかと来ていただいたが、中野武営そのものに関する資料は当館にはなかった。ただ、その方から、武営に関する古い記事について、その所収を調べたいとの依頼があり、その方に、自身がコピーをとったものがどの雑誌に載っていたものだったか分からなくなったので知りたいと聞かれて、情報提供したことはあったりした。何年か前に、香川県の誕生についての展示をしたときも、中野武営について調べはしたが、主人公としてアピールできるほどの資料はなかった。今回の企画展示は、タイムリーということでは、笠置シズ子を少し出しているのを見ていただいたらと思っている。

【委員】 先ほど、交通アクセスの話が出て、リーフレットでも右下の方にアクセスの方法（ルート）が書かれている。こういう展示で割と長い間やっているときであれば、こういう周知の仕方でいいと思うが、例えば講習会があり、開始、終了時間が決まっているという場合には、少なくとも主要駅からバスで来るとなると、その時間帯をかんがみて、開始終了も、公共交通の時間に一定程度合わせたやり方をしないと、地方で公共交通に頼らないといけないような人たちが大勢集まるとき、そういう一定程度配慮をしないとなかなか人が集まらないのではないか。

【事務局】 文書館、図書館は、高松市中心部から少し外れているところにあるが、駐車場はそこそこ台数を確保しており、車で来る方には一定利便性がいい。今会議をしているこのホールも、常には貸館ということで、いろんな団体にご利用いただいている。一方、委員ご指摘のとおり、バスではなかなかアクセスが悪いことがある。確かに会議というのであれば、公共交通機関を利用される方には便が悪いとか、開始時間によっては不便な場合があるかと思う。会議や催し物の性質などにも気をつけながら、開始、終了時間なども今後可能な限り考えた上で、会議、開催時間の設定をしたい。

【委員】 先ほどの中野武営の件だが、中野武営の顕彰会が精力的に進めているし、館に關係資

料がほとんどないというのであれば、静観するしかないのではないかと思います。その成果をいただくのはありがたいことである。

4 その他

【事務局】 チラシをお配りしているが、今展示を準備しており、概ね陳列が完成したので、帰りにお時間のある方は展示室を見てもらえたらと思う。

5 閉会